

おおいた

がはら版



不安な毎日だからこそ、
今ここを大切にしよう



新年を迎え、各職場に新人が続々と入ってきました。本協会にも入会者が増えていることと思います。桜も満開で春うらかな日々ですが、この穏やかな気候とは裏腹に、私たちは、今までに経験したことのない危機を迎えています。誰が、こんな春を迎えると思っていたのでしょうか。本来なら、オリンピック開催に向け、日本中が沸き立つような心躍る日々を過ごすはずでした。しかし、今年の1月から中国で始まった新型コロナウイルスの流行が、世界的な危機を迎えています。私が執筆している4月3日には、まだ日本では緊急事態宣言は出ておりませんが、ヨーロッパやアメリカでは都市封鎖を行っている国があります。感染者・死者が倍々ゲームのように増え、医療崩壊を起こしている地域もあります。東京では1日の感染者が100人近くになり、いよいよロックダウンの日も近いとメディアでは騒がれています。

大分でも、大分市東部地域の基幹病院である大分医療センターにて院内感染が起き、地域の関係医療機関にも感染が広がりました。私の勤務する大分県立病院に転院してきた患者さんの中にも一人感染者がおり、濃厚接触者となった医療者や患者さん達の検査に追われ、当該診療科を一時閉鎖する事態となりました。医療・福祉の地域連携が進んでいる今日、一つの医療機関で感染が広がれば、地域全体に波及するのだと言うことをまざまざと感じた日々でした。どの医療機関・どの施設でも院内感染は起こりうることで、それだけに衝撃的で、各医療機関で対応に追われたことと思います。濃厚接触者でもない職員の家族が、職場から出勤停止を命じられたり、保育園の預かりを拒否されるなど、行き過ぎたリスクマネジメントがもたらす地域の混乱もありました。感染者が多数出た大分医療センターでは残ったスタッフでいろんな対応に追われ、感染した方もそうでない方も本当に心身に傷つき、大変な日々だったのではないのでしょうか。

今後、感染者が増加していけば、指定感染症医療機関がつぶれないように、地域の医療機関が感染者以外の入院患者を引き受けたり、救急を引き受けたりといった、今まで以上の連携強化が問われます。一つ一つの医療機関が、自施設の感染予防と共に、地域医療を守っていかなければなりません。また、職員・患者家族・関係者など、誰が感染するかはわかりません。私たち医療ソーシャルワーカーが感染すれば、院内外での活動範囲が広がれば広いほど、濃厚接触者を増やすこととなります。それだけに手洗いなど標準予防策をしっかりと一人一人が必要があります。

このコロナウイルスによる医療崩壊を防ぐために、世界的に行動制限をしているため、人・モノ・金融が止まりおそらく世界的な大恐慌に陥るだろうとも言われています。すでに休業や倒産による収入減や解雇が起きており、各国政府も対策はしていますが、ウイルスの収束の見通しも立たず、経済不安は募る一方です。コロナウイルスに伴うさまざまな問題は、おそらく私たちの目の前の患者さん達の生活にも大きく影響すると思われます。経済的な問題だけではなく、学校の休校やテレワークの導入でDVや児童虐待の件数が増えるというデータも出てきています。通所系の介護福祉サービスが利用できず、高齢者・障害者のQOLが低下したり、高齢者虐待のリスクも高まることもあるかもしれません。こういう時こそ、私たち医療ソーシャルワーカーは、地に足をつけて、冷静な目で目の前の事象をアセスメントし、必要な援助を行っていかねばなりません。

そのためには、まずは私たち一人一人の心身を安定させることです。行動制限のある中、いつもと同じストレス発散は難しいかもしれませんが、家の中で家族と共に過ごせることで思いっきり笑ったり楽しんだり癒やされたりすることを大切にしましょう。今、いろんな音楽や動画、本や漫画なども無料公開されています。また友人と飲み歩く代わりにオンライン飲み会をしたり、電話で話したりするのも良いと思います。遠くに住む両親のご様子をこまめに聞いたりしても良いですね。庭の花を慈しんだり、ペットと遊んだりするのも大切です。今まで以上に日常を丁寧に大切に過ごすことがまず私たちにとって一番必要なことです。

現実には不安なことが多いですが、震災の時と同じように、人の絆の大切さを感じることで今こそ私たち一人一人が、連携してこの危機を乗り越えていきましょう。何か困ったことがあれば、いつでも協会を頼ってください。理事に相談してください。みんなで頑張りましょう！

副会長 楠元 緑

Smile Meeting in 南部

2月15日(土)、今年度最終回を新棟移転となった南海医療センターで開催しました。はじめに、山本氏(西田病院 連携部長)より、「身寄りのない患者の支援」に関する事例提供が行われました。その後、3グループでグループワークを行いました。経験年数に関係なく、参加者全員がそれぞれの想いを発言し、それを共有することができ、とても有意義な会となりました。会終了後には南海医療センター内の見学もさせていただきました。すばらしい設備ばかりで、参加者の目が輝いていました。

次回は北部地区で開催予定です。みなさんふるってご参加ください。



理事動向

- 1/25 大分県地域リハビリテーション研究会交流会
- 1/26 大分地域リハビリテーション・ケア研究大会
- 1/31 大分県及び大分市慢性疾患児童等地域支援協議会
- 2/9 大分県放射線技師会創立70周年記念式典
- 2/15 Smile meeting in南部
- 2/20 大分市在宅医療・介護連携会議
- 2/20 第3回大分県医療計画策定協議会

- 1/6 山本薫(大分大学医学部付属病院 患者支援センター)
- 1/27 淵田未央(臼杵病院)

一般社団法人
大分県医療ソーシャルワーカー協会 事務局

〒879-2201 大分県大分市大字佐賀関750-88
(社会医療法人 関愛会 佐賀関病院内)
TEL:097-575-1172(代表)
FAX:097-575-1154(地域連携室直通)
E-mail: oita-msw@oita-msw.com
URL: http://oita-msw.com



編集後記

新年度が始まり、診療報酬改定もありバタバタの日々...ですが、今最も気になるのは新型コロナウイルスの流行です。7県だけの緊急事態宣言も今や全国に...大変な時期ではありますが、こうしたときこそONE TEAMで支え合い、助け合っていければと思います。頑張ろう、日本!! 頑張ろう、大分!!
(Vol. 58 担当: T)

NEW FACE

2020年4月末現在
会員数: 291名

～研修報告～

【中堅者研修】



中堅者研修会が、1月19日(日)に大分県病院協会福祉部会 後期研修会との共同開催で、「家族不在・意思表示困難な患者支援を考える」のテーマで別府ビーコンプラザ 国際会議室にて開催いたしました。

参加者も100名を超え、①「意思表示困難・家族不在の患者の医療同意についての実態調査報告」を社会医療法人 関愛会 高橋勝さんより行い、②の「～家族不在・意思表示困難な患者支援を考える～」では、高橋勝さんに座長をお願いし、社会医療法人関愛会 坂ノ市病院 地域連携課 課長 大塚奈々さん、日本赤十字社 大分赤十字病院 地域医療連携課 MSW 宇都宮隆宏さんによる実践報告。また、弁護士法人 大分あおば法律事務所 弁護士 田中武利先生による法律の解説や事例に基づいた解説を行い、セッションは座長の進行でフロアとの活発なやり取りをすることが出来ました。

【災害研修】

2月1日(土)に災害研修『災害ソーシャルワーク～避難所におけるソーシャルワーク: DISASTER SOCIAL WORK～』を開催しました。

避難所運営ゲーム(通称HUG:ハグ)と呼ばれる、避難所を運営する側のスタッフとして、避難者の受け入れや避難所運営について、チームでディスカッションしながら進めていく机上訓練型のゲームを参加者23名4チームにて行いました。

災害ソーシャルワークの経験のある方とない方ともにチーム一丸となって、次々と迫りくる課題に対して、和気あいあいと話し合いながら避難所の運営方法を考えていました。最後に各グループの代表者1名より、それぞれのチームの運営方法と他グループへの質問を行って頂き、盛況のうちに終了となりました。

災害はいつでも、どこでも、誰もが遭遇する可能性がある危機です。私たち医療ソーシャルワーカーも、被災地で活躍するだけのスキルを身につけておくことが必要ですね。

研修後には
新年会が
行われました!



Voice

★ 大分県MSW協会新年会! ★

大分県医療ソーシャルワーカー協会の新年会が、2月1日(土)に開催されました!! 参加者70名超!! 脇坂会長は、感激したと言われていました^^ 企画準備してくれた特命班VOICEの皆さんも、本当にお疲れ様でした。楽しい時間をありがとうございました♪

大分県各地から集まったソーシャルワーカーの仲間たち。日頃、遠くてなかなか会えない人たちや、電話でしか話したことのない方など、この場で新たな出会いと嬉しい再会が数多く生まれたことを願います。

参加された皆さん、ありがとうございました!



～研修告知～

対象:実務経験3年未満のソーシャルワーカー
※聴講希望者も受け付けています。



全7回	研修内容
第1回	①医学知識(がん・緩和ケア) ②医学知識(認知症・アルコール関連問題とアディクション)
第2回	③医学知識(生活習慣病) ④医学知識(在宅医療)
第3回	⑤医学知識(脳卒中と連携パス) ⑥生活機能障害とソーシャルワーク
第4回	⑦厚生労働省の動向 ⑧社会保障制度とソーシャルワーク
第5回	⑨調整中 ⑩調整中
第6回	⑪支援方法論 アセスメント I
第7回	⑫医療における『家族』の理解

日程や会場、講師については
決まり次第お伝えします!



各部紹介 学術部



学術部のメンバーは所属機関が県内北部から県南まで広範囲のMSWと特別養護老人ホーム、老人保健施設の相談員 総勢11名で活動しています。

前学術部からの活動を引継ぎつつ、今期メンバーでも協会の皆さんの学術研究活動の支援を行なうことで、実践の質向上や発信力の向上に繋げられる様に活動を行なっています。具体的には、社会資源ワークショップの企画・運営や診療報酬改定に向けた情報発信、学術研究大会、演題発表の企画・立案を行なっています。

年末年始、協会の皆さんには学術研究大会に向けた「入退院支援情報共有ルールに関するアンケート」の回答にご協力頂きありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。おかげさまで多数の回答を頂き、その結果を3月の学術研究大会で公表する予定でしたが、残念ながらコロナ感染拡大防止の対応により、学術研究大会、演題発表が開催できず今日に至っております。アンケート結果は近日中に公表予定で準備を進めていますのでいましばらくお待ちください。

また、演題発表にも学術部での予想以上の方にご応募頂きありがとうございました。今回のコロナ情勢が落ち着きましたら、発表の機会を改めて調整しお知らせ致します。

さらに今年度、協会のホームページがリニューアル予定です。ホームページ内で「ソーシャルワーク研究発表・論文ライブラリー」という項目に今までに研究発表・論文発表をされた協会の皆さんの論文等の追加掲載も順次進めていきます。

協会皆さんのお役に立てる様、学術部メンバーで力を合わせて「コロナ危機」を乗り越えていきたいと思っておりますので、引き続き協会の皆さんのご協力の程、よろしくお願い致します。

部会は概ね平日18:30以降で大分方面で開催しています。一緒に活動して頂けるメンバーを随時募集中です! 入部につきましては協会事務局又は学術部理事、部長までお気軽にお問合せください!

(コロナ情勢が落ち着くまでは部会はメール会議です。。メンバーと顔を合せる機会が減ってしまっていて淋しいですが、感染拡大防止の為には仕方ないですね。協会の皆さんもまずは自分自身、身近な方が感染しない様に十分気をつけましょう!)

